

グラフでみる加工食品の 生産・販売、外食等の指標



目次

<グラフでみる生産販売統計>

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

<今月のトピック>

- ・食品製造業の労働生産性



1. 加工食品の生産動向

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品のうち、特コロナ禍で変動の大きい品目の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

なお、詳細は、<https://www.fmric.or.jp/stat/index.html>

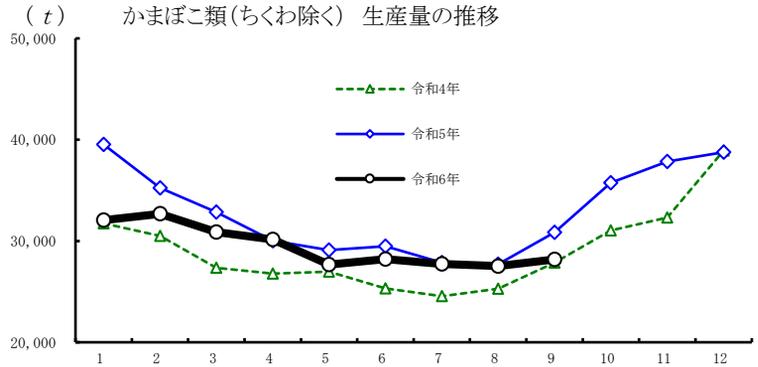
「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

9月 8.7% 減少

令和元年同月比 **9.2% 減少**

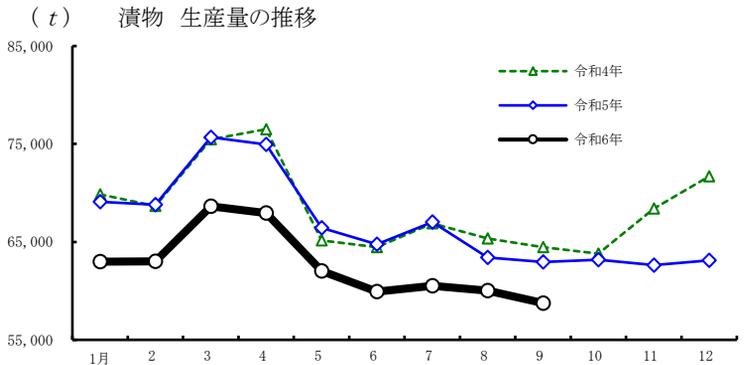


○ 漬物

生産量 対前年同月比

9月 6.6% 減少

令和元年同月比 **1.8% 減少**

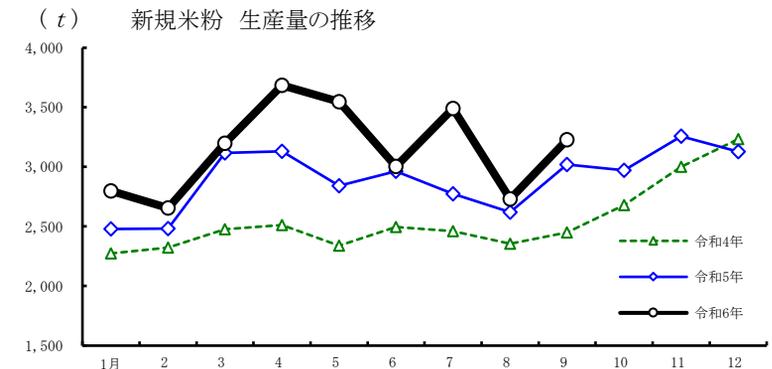


○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

9月 6.9% 増加

令和元年同月比 **45.2% 増加**

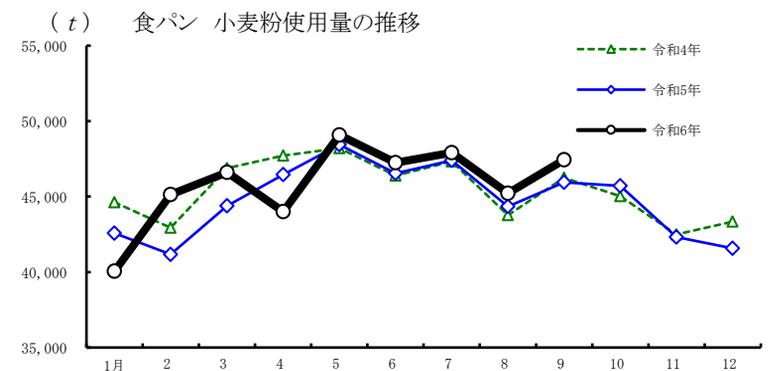


○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 3.3% 増加

令和元年同月比 **1.6% 減少**



1. 加工食品の生産動向

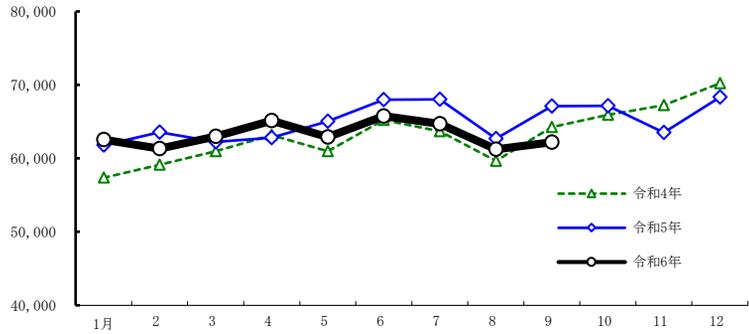
○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 7.3% 減少

令和元年同月比 6.3% 増加

(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移



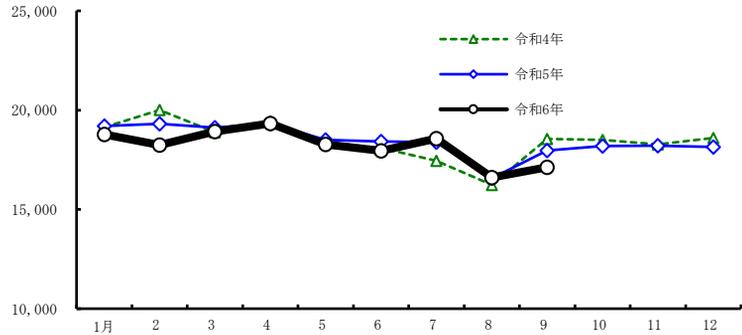
○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 4.7% 減少

令和元年同月比 3.6% 増加

(t) カップめん 小麦粉使用量の推移



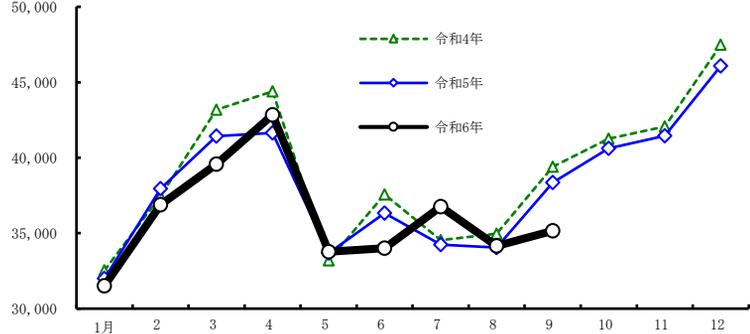
○ 味噌

生産量 対前年同月比

9月 8.3% 減少

令和元年同月比 12.0% 減少

(t) 味噌 生産量の推移



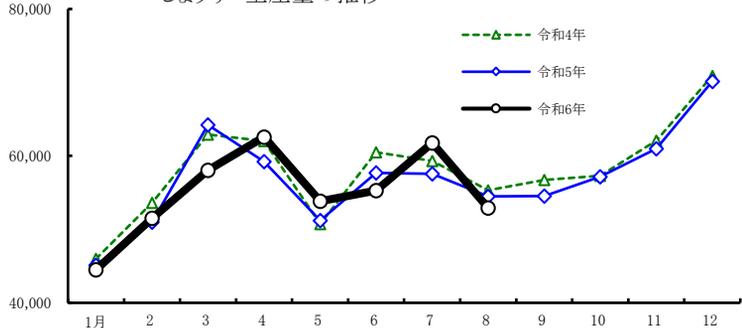
○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

8月 2.9% 減少

令和元年同月比 8.7% 減少

(kl) しょうゆ 生産量の推移



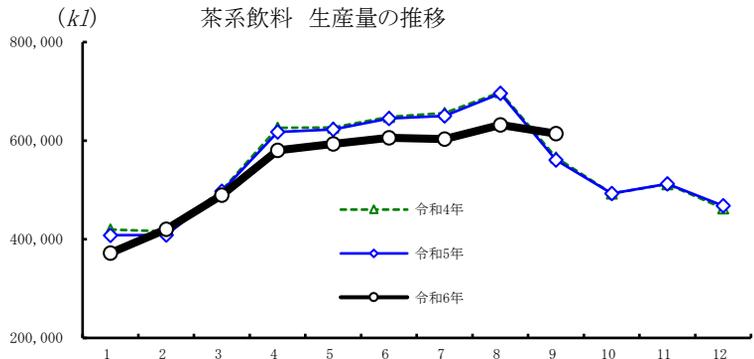
1. 加工食品の生産動向

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

9月 9.6% 増加

令和元年同月比 4.4% 増加

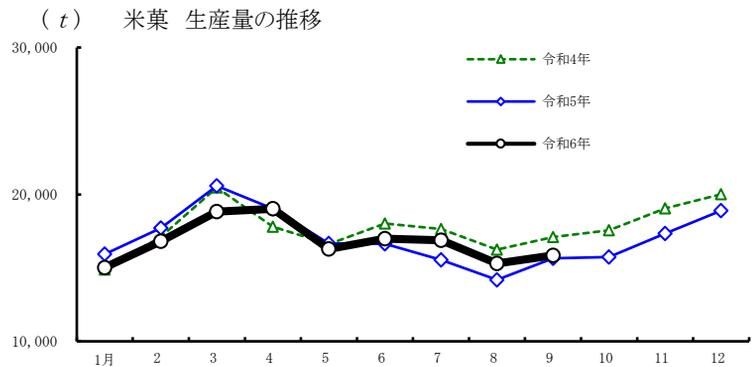


○ 米菓

生産量 対前年同月比

9月 1.3% 増加

令和元年同月比 11.3% 減少

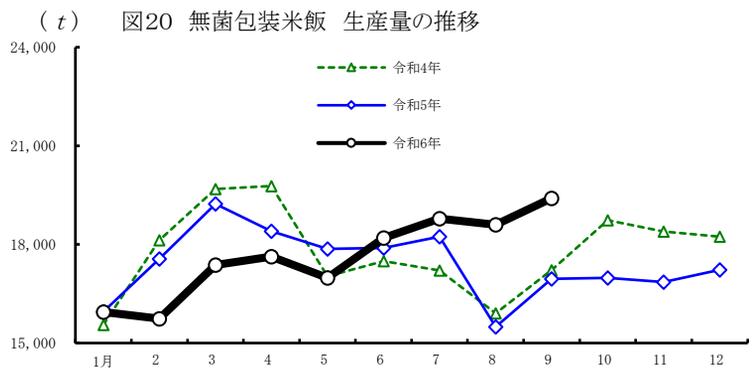


○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

9月 14.5% 増加

令和元年同月比 20.5% 増加

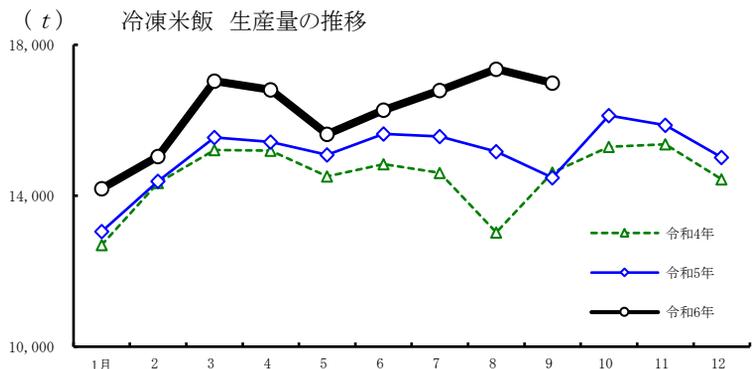


○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

9月 17.3% 増加

令和元年同月比 8.8% 増加



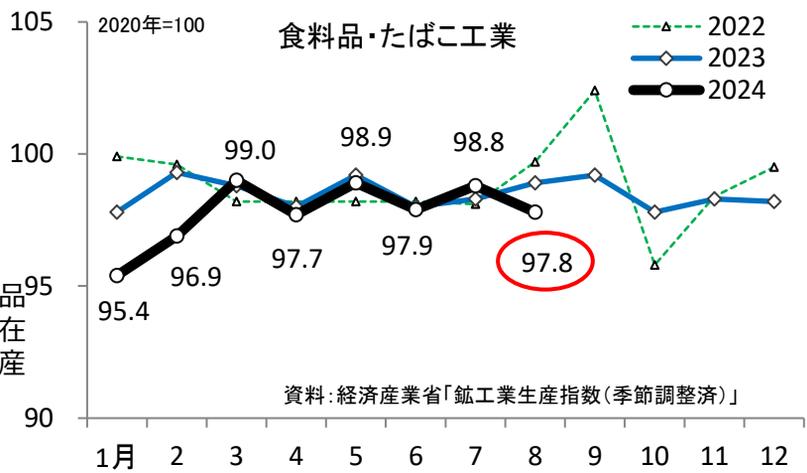
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

8月 1.1% 減少

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



2. 食品卸売業・食品小売業

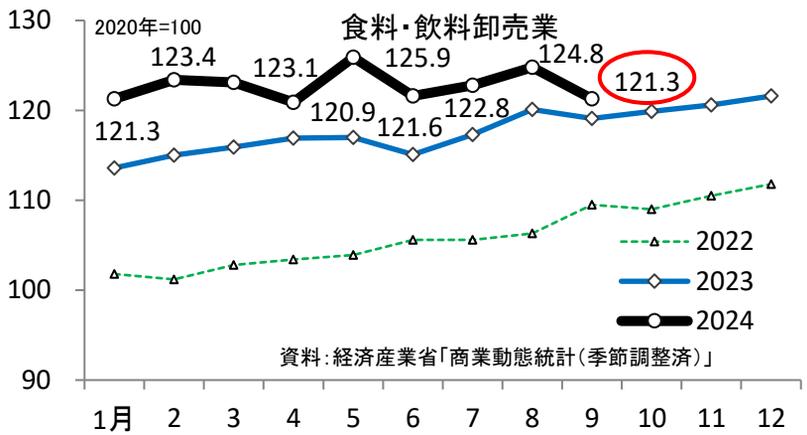
○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

9月 1.8% 増加

2019年同月比 12.5% 増加

経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別(スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高(月次速報)について、みることができます。

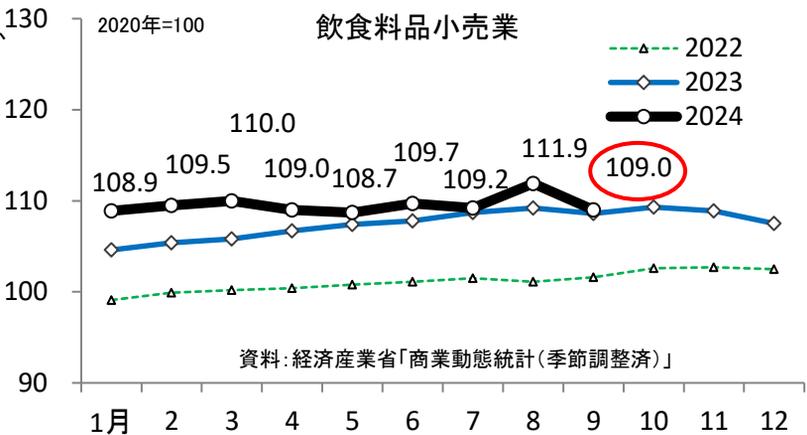


○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

9月 0.4% 増加

2019年同月比 10.3% 増加

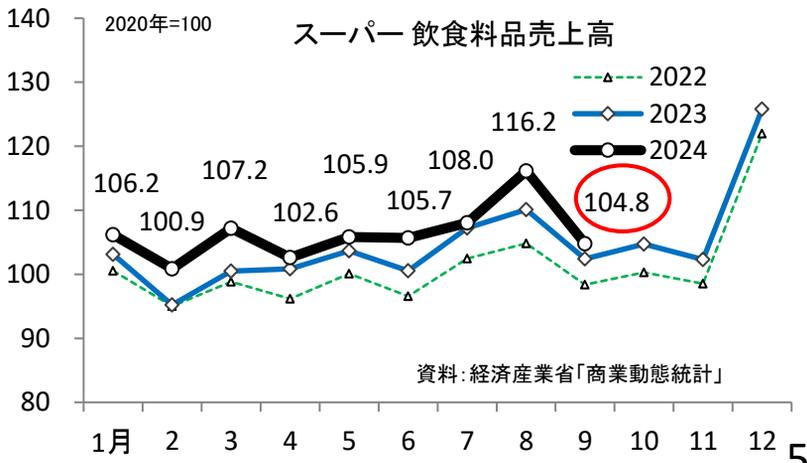


○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

9月 2.3% 増加

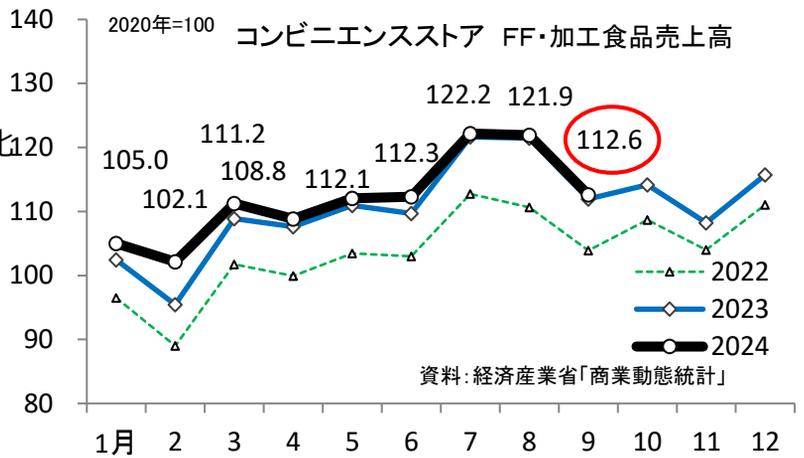
2019年同月比 27.2% 増加



2. 食品卸売業・食品小売業

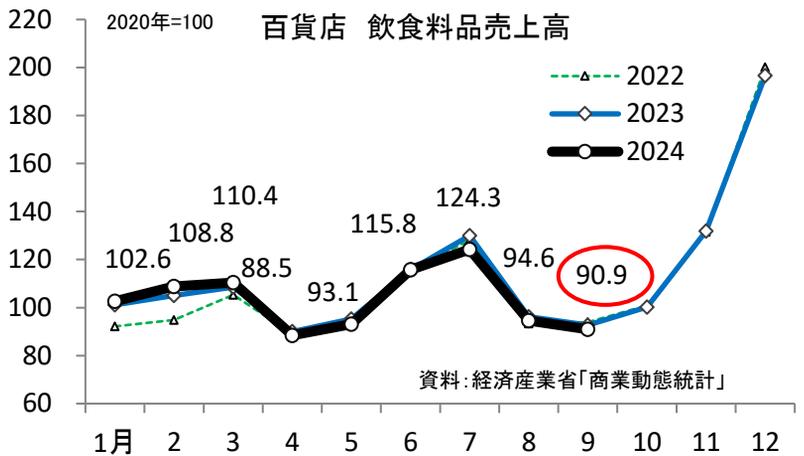
○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比
9月 0.6% 増加
 2019年同月比 14.4% 増加



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比
9月 1.9% 減少
 2019年同月比 6.8% 減少

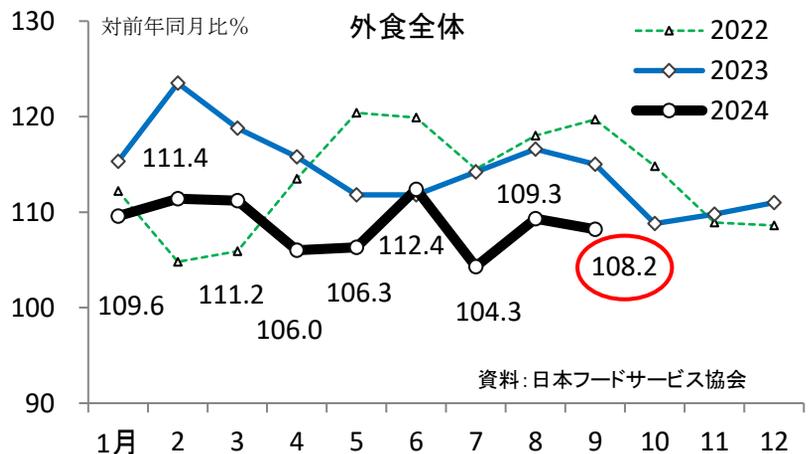


3. 外食産業

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比
9月 8.2% 増加
 2019年同月比 17.6% 増加



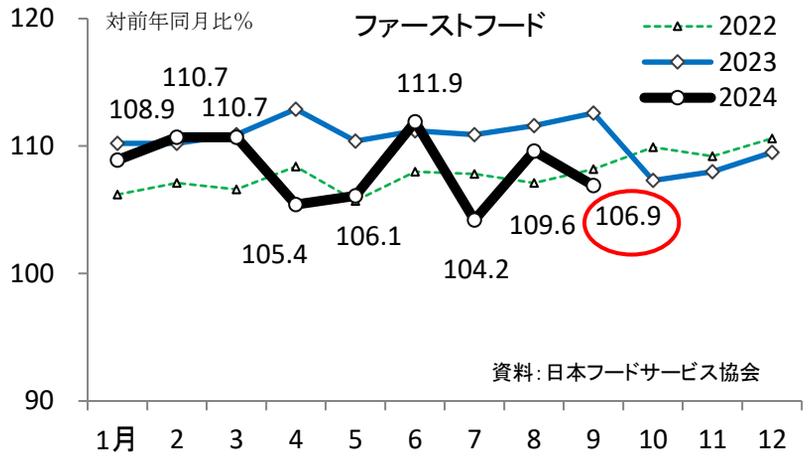
3. 外食産業

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

9月 6.9% 増加

2019年同月比 31.0% 増加

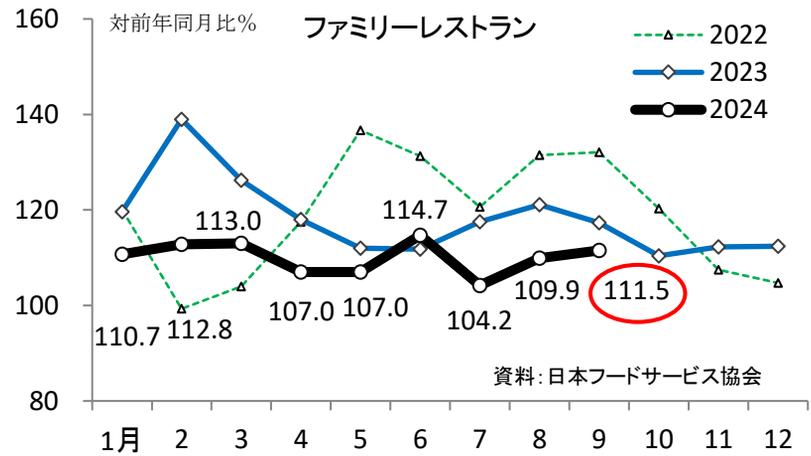


○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

9月 11.5% 増加

2019年同月比 4.6% 増加

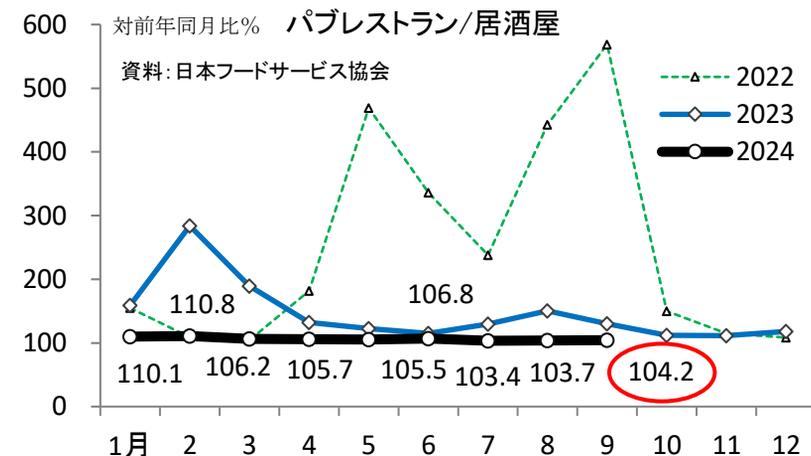


○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

9月 4.2% 増加

2019年同月比 22.8% 減少

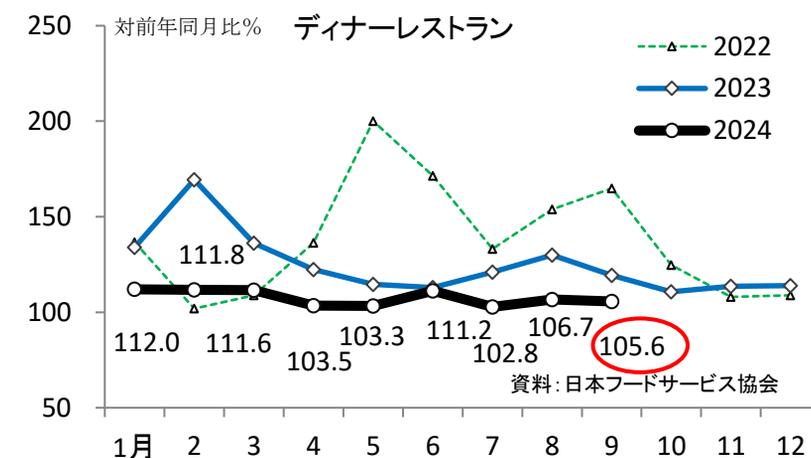


○ デイナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

9月 5.6% 増加

2019年同月比 4.7% 増加



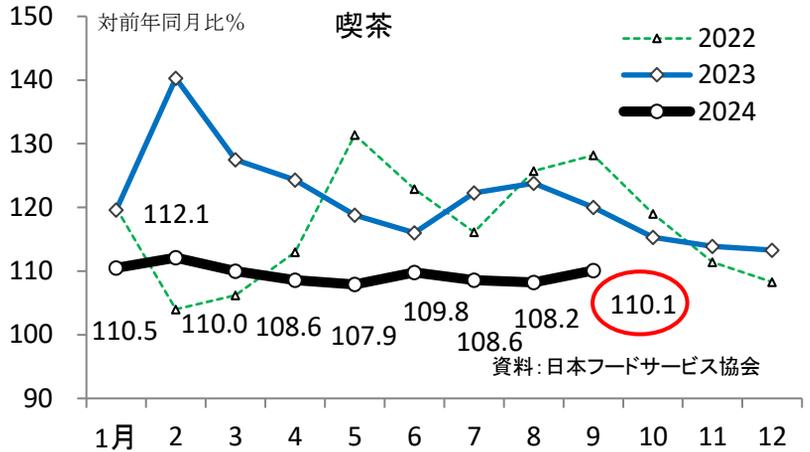
3. 外食産業

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

9月 10.1% 増加

2019年同月比 7.2% 増加



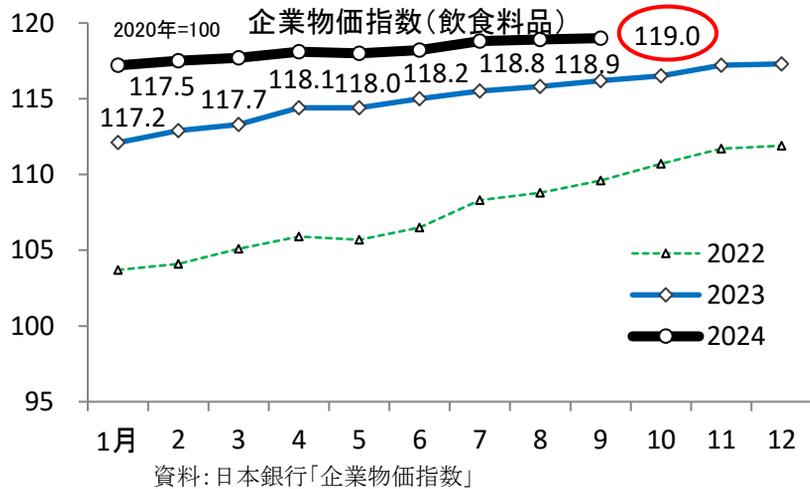
4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」



○ 企業物価指数 (飲食料品)

飲食料品 対前年同月比

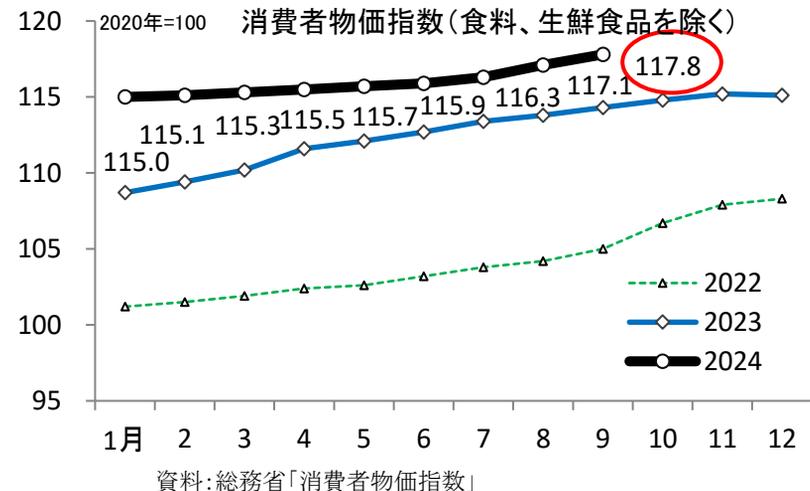
9月 2.4% 上昇

○ 消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」



○ 消費者物価指数 (食料 (生鮮食品除く))

食料 対前年同月比

9月 3.1% 上昇

令和3年の食品製造業の労働生産性は、対前年比▲2.2%とわずかに低下

令和3年の食料品製造業における従業者1人当たりの付加価値額は、1,033万円で対前年比▲2.2%とわずかに減少した。これは食品製造業の原材料使用額等が製品出荷額等を上回ったことから、従業者1人あたり付加価値額が減少となった。

4区分業種類型別にみると、従業者1人当たりの付加価値額は、素材型が1,701万円で前年並みとなっている。

加工型は846万円で同▲2.4%とわずかに減少した。

飲料は2,106万円で同0.3%と前年並みとなった。

酒類は3,107万円で同▲7.6%とかなりの程度減少した。

近年、食品製造業の労働生産性は平成27年以降、緩やかに上昇で推移したが、令和3年は低下となった。これは飲食料品の輸入物価及び企業物価の上昇し、製品販売価格への転嫁が遅れていることが要因とみられる。

図1 食品製造業の労働生産性（従業者1人あたりの付加価値額）

単位: 万円、%

業種	区分・年次	金額					対前年増減率						
		28年	29年	30年	元年	2年	3年	28年	29年	30年	元年	2年	3年
食料品製造業		992	1,006	1,006	1,024	1,056	1,033	0.9	1.3	0.0	1.7	3.2	▲2.2
素材型		1,652	1,762	1,730	1,663	1,711	1,701	▲6.1	6.6	▲1.8	▲3.9	2.9	▲0.6
調味料製造業		1,518	1,634	1,628	1,560	1,488	1,453	▲1.5	7.6	▲0.4	▲4.1	▲4.6	▲2.4
糖類製造業		2,388	2,471	2,300	2,060	2,637	2,499	▲2.6	3.5	▲6.9	▲10.4	28.0	▲5.2
精穀・製粉製造業		1,520	1,710	1,634	1,561	1,915	1,746	▲13.6	12.5	▲4.4	▲4.5	22.7	▲8.8
動植物油脂製造業		2,076	2,038	2,026	2,094	1,940	2,380	▲14.1	▲1.8	▲0.6	3.4	▲7.3	22.7
加工型		793	802	813	841	867	846	1.1	1.1	1.4	3.4	3.0	▲2.4
畜産食料品製造業		1,077	1,039	1,078	1,080	1,109	1,079	▲0.2	▲3.5	3.7	0.2	2.7	▲2.7
水産食料品製造業		645	676	646	680	741	766	▲7.1	4.7	▲4.3	5.3	9.0	3.4
野菜・果実等製造業		576	614	621	670	701	665	2.1	6.5	1.2	7.9	4.5	▲5.0
パン・菓子製造業		976	983	1,031	1,062	1,101	1,000	▲0.5	0.7	4.9	3.0	3.7	▲9.2
その他の食料品製造業		619	631	622	655	644	671	8.1	2.0	▲1.5	5.4	▲1.7	4.3
飲料		2,058	2,209	2,172	2,069	2,100	2,106	▲7.1	7.4	▲1.7	▲4.7	1.5	0.3
清涼飲料製造業		2,846	3,098	3,028	2,859	2,726	2,757	▲10.5	8.8	▲2.3	▲5.6	▲4.6	1.1
茶・コーヒー製造業		810	850	772	756	948	970	5.2	4.8	▲9.1	▲2.1	25.3	2.3
酒類		3,631	3,409	3,280	3,320	3,364	3,107	11.4	▲6.1	▲3.8	1.2	1.3	▲7.6
酒類製造業		3,631	3,409	3,280	3,320	3,364	3,107	11.4	▲6.1	▲3.8	1.2	1.3	▲7.6
他に分類されない食料品製造業		878	890	867	889	935	935	6.2	1.3	▲2.5	2.5	5.2	0.0

資料: 経済産業省「工業統計」、「経済センサス-活動調査」、「経済構造調査」より作成

注1: 1人あたり付加価値額 = 付加価値額 ÷ 従業員数

注2: 食品製造業計には、飲料及び酒類を含む。

注3: 付加価値額(経済産業省「工業統計」参照)

(従業者30人以上) 付加価値額 = 製造品出荷額等 + (製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額) +

(半製品及び仕掛品年末価額 - 半製品及び仕掛品年初価額) - (消費税を除く内国消費税額 +

推計消費税額) - 原材料使用額等 - 減価償却額

(従業者29人以下) 粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - (消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額) - 原材料使用額等

食品製造業の労働生産性は、総じて、従業員規模が大きいほど高い

令和3年の食品製造業の労働生産性は、経済産業省「経済構造調査」によれば、従業員数の規模が大きくなるにつれて高くなっている。ただし、「100人～299人」と「300人以上」の規模間において、このような労働生産性の従業員規模による差異は、小さくなっている。

図2 食品製造業の労働生産性（令和3年、従業員規模別）

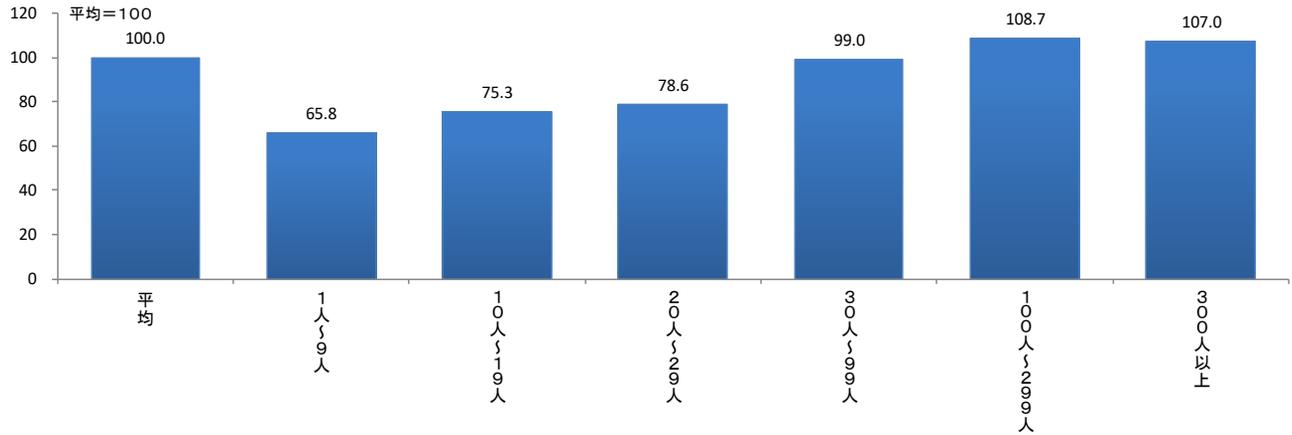


図3 食品製造業の労働生産性（令和3年、従業員規模別）の推移

